



## エナプター（Enapter）CEO：ゼバスチャン＝ユストウス・シュミット (Sebastian-Justus Schmidt)

水素エネルギー事業を手がける以前は、モバイルソフトウェア大手 SPB Software の創業者、OTT/IPTV サービスアプリ「SPB TV」の共同創業者、IoT 分野のアドバイザーを務め、ロシア最大の IT 大手ヤンデックスのモバイル部門のゼネラルマネージャーと副社長を兼任。

水素エネルギー事業に参入したきっかけは、タイでの自宅建築に、家のカーボンフットプリントを最小限に抑えたいという思いからだった。ゼロエネルギーハウスのプロジェクト「[Phi Suea House](#)」の建設に着手し、2014 年初旬、イタリアの小規模メーカー ACTA 社より水素システムのプロトタイプを導入、屋根置きソーラーシステム合計 100kW を設置した。この「Phi Suea House」は、世界で初めての水素エネルギー貯蔵手段を活用した戸建て集合住宅（コンパウンド）となった。2015 年以降、この住宅は東南アジアにおけるエネルギー自給型住宅のフラッグシッププロジェクトとして、太陽と水だけで住宅のエネルギーをまかなえることを実証し続けている。

これを機に、水電解水素製造技術がもたらす可能性に注目し、2017 年末に 2 度目の経営破綻に瀕していた、イタリアの ACTA 社を取得し、同年 11 月にグリーンエネルギーシステム会社、エナプターを設立。自身が強みとしてきた、実効的な研究開発の統率力、ソフトウェア開発の指導力を原動力に、水素技術への信念と IT 知識を組み合わせ、ソフトウェアによる監視・制御ソリューションである「エネルギーマネジメントシステム（EMS）」を開発した。

ゼバスチャンは、エナプターは、量産化により今後 5 年間で水素電解槽の価格を大幅に引き下げることができると確信している。当社のエンジニアは電気化学技術と IT 分野における豊富な専門性を結集し、カーボンフリーの未来を実現する新たなソリューションの開発に取り組んでいる。そして 2025 年までに水素コストを 1 キロ当たり 1.5 ユーロまで引き下げることを目指している。